

第 5 回 日米実務者会議 議事要旨

1 . 開催日：平成 20 年 12 月 11 日～12 月 12 日

2 . 開催場所：三田共用会議所（東京）

3 . 出席者

米国側：レスリー・トゥアート（米国環境保護庁）他 6 名

日本側：井口泰泉（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）他 11 名

環境省：木村博承（環境省環境保健部環境安全課）他 2 名

敬称略

4 . 議事要旨

- ・ 試験法開発でのこれまでの研究成果と取組みの概要について、日本側（井口泰泉）及び米国側（レスリー・トゥアート）より説明がなされた。
- ・ 魚類、両生類及び無脊椎動物における研究成果について、日米の各研究者より報告がなされ、質疑応答が行われた。
- ・ 試験生物ごとに、現状の課題について質疑応答が行われた。また、現状の課題を踏まえ、今後検討する事項や試験を実施する物質などについて質疑応答が行なわれた。
- ・ 今後の日米実務者会議の取組方針として、魚類では、作用モードに着目し日米で広範囲にデータを収集し、プロトコルを簡素化していくこと、魚類フルライフサイクル試験と二世世代繁殖試験の結果を比較し、研究報告書を作成することなどが確認された。
- ・ 両生類では、長期生殖試験のプロトコル作成を日米で進めていくこと、エチニルエストラジオールの作用機序に関する情報を日米で収集していくことなどが確認された。
- ・ 無脊椎動物では、アミ、コペポッド、オオミジンコについてデータを収集し、種間差について比較、検討することなどが確認された。
- ・ 本会議では分子生物学的ツールを用いた日本側と米国側の取組が報告され、さらに情報交換を進めていくことが確認された。